

JA自己改革推進レポート（JA鳥取西部）7月号

1. 地元特産もっと知って、食育授業

6月5日、中山小学校の総合学習の授業に協力し、地元の特産「大山ブロッコリー」の食育授業を行った。

3年生28人に大山ブロッコリーの栽培方法や流通、お勧めの食べ方などを分かりやすく紹介した。面白いクイズや大山ブロッコリーのゆるキャラの缶バッジプレゼントなども取り入れ、児童らは楽しみながら大山ブロッコリーへの理解を深めた。



2. 新型コロナウイルスで施設見学中止。ビデオで社会科見学

白ネギ共同選果場は例年、社会科見学として地元小学生を年間800人ほど受け入れているが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のために全て断っている。

そのような状況の中、弓ヶ浜小学校教員から「社会科見学に行けない児童のため、ビデオ撮影し、街しらべ学習に役立てたい」との申し出があり、6月14日、教員3名の施設見学を受け入れた。

白ネギの選果や箱詰め作業の様子、施設担当者へのインタビューなどを教員が撮影し、編集した約40分のビデオ教材が授業で活用され、児童の地元農業への関心を高めた。



3. 小学生がJA支所見学 地域の仕事を学ぶ

大山小学校の児童が6月25日、地域の店や施設などを見学する校外学習授業の一環として大山支所を訪れた。

訪問した児童に対し、JAは農家や地域を支える仕事を行っていることを分かりやすく伝えた。



4. 腰痛の予防・軽減で生産者を支援

生産者や西部農業改良普及所、鳥取大学医学部、JA鳥取西部などで構成する白ネギ作業改善プロジェクトチームは、白ネギ生産者の腰痛の予防や軽減などを目的とした「腰ラクラク白ネギ体操」を考案し、リーフレットを作成した。

リーフレットでは器具などを使わず畑や家などで無理なく短時間で行うストレッチや筋力トレーニングなどを紹介しており、講習会などで参加者に配布し活用を呼びかけていく。

